

CASBEE® あいち

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	林テレンプ(株)新生産棟建設プロジェクト	階数	地下0階地上6階
建設地	愛知県豊田市亀首町町屋洞100-2の一部他6筆、ハツ口洞13-1他3筆	構造	S造
用途地域	市街化調整区域、防火地域指定なし	平均居住人員	770人
気候区分	6地域	年間使用時間	1,920時間/年
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2027年8月 予定	評価の実施日	2025年11月17日
敷地面積	2,495㎡	作成者	竹尾 哲哉
建築面積	1,467㎡	確認日	2025年12月16日
延床面積	7,707㎡	確認者	林 貴夫



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.3 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO2(温暖化影響チャート)

★☆☆☆☆

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	76%
③上記+②以外の	76%
④上記+	76%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO2排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.8

Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.2

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.1

LR のスコア = 3.6

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 4.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.6

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.0

3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.9</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.5em;">47.7 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.5em;">0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.5</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p>〈外装材に使用した地域性のある材料〉</p> <p>なし</p> <p>〈建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材〉</p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積} - \text{建築面積} - \text{附属物面積}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
林テレンプ(株)新生産棟建設プロジェクト

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質								
Q1 室内環境								
1 音環境								
1.1 室内騒音レベル								
1.1 室内騒音レベル								
1.2 遮音								
1 開口部遮音性能								
2 界壁遮音性能								
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)								
4 界床遮音性能(重量衝撃源)								
1.3 吸音								
床、天井に吸音材を使用している。								
2 温熱環境								
2.1 室温制御								
1 室温								
2 外皮性能								
3 ゾーン別制御性								
2.2 湿度制御								
2.3 空調方式								
3 光・視環境								
3.1 昼光利用								
1 昼光率								
2 方位別開口								
3 昼光利用設備								
3.2 グレア対策								
1 昼光制御								
PCa庇があります。								
3.3 照度								
3.4 照明制御								
4 空気質環境								
4.1 発生源対策								
1 化学汚染物質								
JIS・JAS規格のF☆☆☆☆をほぼ全面的に採用している。								
4.2 換気								
1 換気量								
2 自然換気性能								
3 取り入れ外気への配慮								
4.3 運用管理								
1 CO ₂ の監視								
2 喫煙の制御								
建物全体が禁煙								
Q2 サービス性能								
1 機能性								
1.1 機能性・使いやすさ								
1 広さ・収納性								
2 高度情報通信設備対応								
3 バリアフリー計画								
1.2 心理性・快適性								
1 広さ感・景観 (天井高)								
2 リフレッシュスペース								
3 内装計画								
1.3 維持管理								
1 維持管理に配慮した設計								
2 維持管理用機能の確保								
2 耐用性・信頼性								
2.1 耐震・免震・制震・制振								
1 耐震性(建物のこわれにくさ)								
2 免震・制震・制振性能								
2.2 部品・部材の耐用年数								
1 躯体材料の耐用年数								
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔								
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔								
4 空調換気ダクトの更新必要間隔								
5 空調・給排水配管の更新必要間隔								
6 主要設備機器の更新必要間隔								
2.4 信頼性								
1 空調・換気設備								
2 給排水・衛生設備								
3 電気設備								
4 機械・配管支持方法								
5 通信・情報設備								

3 対応性・更新性				0.2	3.6	0.29	-	-	-	3.6	
3.1 空間のゆとり				0.3	4.6	0.31	-	-	-		
1 階高のゆとり			階高: 3.9m以上		5.0	0.60	-	-	-		
2 空間の形状・自由さ			0.1 ≤ [壁長さ比率] < 0.3	3.0	4.0	0.40	-	-	-		
3.2 荷重のゆとり				3.0	3.0	0.31	-	-	-		
3.3 設備の更新性				0.3	3.4	0.38	-	-	-		
1 空調配管の更新性		②			3.0	0.17	-	-	-		
2 給排水管の更新性					3.0	3.0	0.17	-	-	-	
3 電気配線の更新性				配線の主要な部分を天井内こがし・配線ダクト(3~6F)・立上りは電線管・OAフロアなどで配線しているため、仕上げ材を痛めることなく更新・修繕ができる。	3.0	5.0	0.11	-	-	-	
4 通信配線の更新性				配線の主要な部分を天井内こがし・配線ダクト(3~6F)・立上りは電線管・OAフロアなどで配線しているため、仕上げ材を痛めることなく更新・修繕ができる。	3.0	5.0	0.11	-	-	-	
5 設備機器の更新性					3.0	3.0	0.22	-	-	-	
6 バックアップスペースの確保					3.0	3.0	0.22	-	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)						0.30	-	-	-	2.1	
1 生物環境の保全と創出			独自③		1.0	0.30	-	-	-	1.0	
2 まちなみ・景観への配慮			独自④		3.0	0.40	-	-	-	3.0	
3 地域性・アメニティへの配慮				0.3	2.0	0.30	-	-	-	2.0	
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			独自④		2.0	0.50	-	-	-		
3.2 敷地内温熱環境の向上					2.0	0.50	-	-	-		
LR 建築物の環境負荷低減性							-	-	-	3.6	
LR1 エネルギー						0.40	-	-	-	4.0	
1 建物外皮の熱負荷抑制			BPI _m = 0.78	3.0	5.0	0.30	-	-	-	5.0	
2 自然エネルギー利用				3.0	3.0	0.20	-	-	-	3.0	
3 設備システムの高効率化			BEI _m = 0.66	3.0	4.4	0.30	-	-	-	4.4	
4 効率的運用				0.2	3.0	0.20	-	-	-	3.0	
集合住宅以外の評価				1.0	3.0	1.00	-	-	-		
4.1 モニタリング				3.0	3.0	0.50	-	-	-		
4.2 運用管理体制				3.0	3.0	0.50	-	-	-		
集合住宅の評価				-	-	-	-	-	-		
4.1 モニタリング				-	-	-	-	-	-		
4.2 運用管理体制				-	-	-	-	-	-		
LR2 資源・マテリアル						0.30	-	-	-	3.6	
1 水資源保護				0.1	3.4	0.15	-	-	-	3.4	
1.1 節水				3.0	4.0	0.40	-	-	-		
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			節水コマなどに加えて、節水型便器も採用している。	0.6	3.0	0.60	-	-	-		
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	3.0	0.67	-	-	-		
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	3.0	0.33	-	-	-		
2 非再生性資源の使用量削減				0.6	3.8	0.63	-	-	-	3.8	
2.1 材料使用量の削減					3.0	0.07	-	-	-		
2.2 既存建築躯体等の継続使用					3.0	0.24	-	-	-		
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		② 独自	-		3.0	0.20	-	-	-		
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用				床:ビニル系床材, 天井:ボード, 床下:断熱材, 小便器UFS900JS	3.0	5.0	0.20	-	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	2.0	0.05	-	-	-		
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	LGSとOAフロアを使用している。	3.0	5.0	0.24	-	-	-		
3 汚染物質含有材料の使用回避				0.2	3.3	0.22	-	-	-	3.3	
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	3.0	0.32	-	-	-		
3.2 フロン・ハロンの回避				0.6	3.5	0.68	-	-	-		
1 消火剤					-	-	-	-	-		
2 発泡剤(断熱材等)			ODP=0, GWP=3の発泡剤を用いた断熱材を採用。		4.0	0.50	-	-	-		
3 冷媒				3.0	3.0	0.50	-	-	-		
LR3 敷地外環境						0.30	-	-	-	3.0	
1 地球温暖化への配慮		①	ライフサイクルCO2排出率76%。		3.9	0.33	-	-	-	3.9	
2 地域環境への配慮				0.3	2.2	0.33	-	-	-	2.2	
2.1 大気汚染防止					3.0	0.25	-	-	-		
2.2 温熱環境悪化の改善					2.0	0.50	-	-	-		
2.3 地域インフラへの負荷抑制				0.2	2.0	0.25	-	-	-		
1 雨水排水負荷低減		独自			3.0	0.25	-	-	-		
2 汚水処理負荷抑制					3.0	0.25	-	-	-		
3 交通負荷抑制		独自			1.0	0.25	-	-	-		
4 廃棄物処理負荷抑制					1.0	0.25	-	-	-		
3 周辺環境への配慮				0.3	3.0	0.33	-	-	-	3.0	
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				0.4	3.0	0.40	-	-	-		
1 騒音		独自			3.0	1.00	-	-	-		
2 振動		独自			-	-	-	-	-		
3 悪臭					-	-	-	-	-		
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				0.4	3.0	0.40	-	-	-		
1 風害の抑制					3.0	0.70	-	-	-		
2 砂塵の抑制					-	-	-	-	-		
3 日照障害の抑制					3.0	0.30	-	-	-		
3.3 光害の抑制				0.2	3.0	0.20	-	-	-		
1 屋外照明及び屋内照明のうち光に漏れる光への対策					3.0	0.70	-	-	-		
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策					3.0	0.30	-	-	-		

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE:建築(新築)2016年版+あいち版手引き

林テレンブ欄新生産棟建設プロジェクト

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.9
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.9	0.10	
② 資源の有効活用				3.5
Q2-2	耐震性・信頼性	3.1	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.6	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.8	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	外構緑化:47.7%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用			(評価ポイント)	1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 林テレンプ(株)新生産棟建設プロジェクト

計画上の配慮事項	
総合	利用者に配慮し、F☆☆☆☆を使用している。 ライフサイクルCO2排出率の低減に努め、地球環境保護に配慮している。
Q1 室内環境	床、天井に吸音材を使用している。 JIS・JAS規格のF☆☆☆☆をほぼ全面的に採用している。
Q2 サービス性能	事務室の天井高2.9m以上。 執務スペースの1%以上のリフレッシュスペース＋自動販売機等の設置 階高:3.9m以上 $0.1 \leq [\text{壁長さ比率}] < 0.3$
Q3 室外環境(敷地内)	特になし。
LR1 エネルギー	BPI _m = 0.78 BEI _m = 0.66
LR2 資源・マテリアル	節水コマなどに加えて、節水型便器も採用している。 床:ビニル系床材, 天井:ボード, 床下:断熱材 LGSとOAフロアを使用している。
LR3 敷地外環境	ライフサイクルCO2排出率76%。
その他	特になし。